

1 現況認識と基本的考え方		
報告書骨子(案)	検討会	意見
受動喫煙の健康への悪影響は科学的に明らかであり、特に妊婦や子どもへの悪影響が問題である、としてはどうか。	第3回	屋内禁煙法によって心筋梗塞が減ることが明らかにされている。
	第4回	健康影響があることは否定しない。
日本学術会議からの脱たばこ社会の実現に向けた提言(平成20年3月4日「脱たばこ社会の実現に向けて」)、神奈川県における禁煙条例の制定に向けた取組、成人識別機能付自動販売機の導入(平成20年7月から)、JRやタクシーなど公共交通機関における受動喫煙防止対策の取組の前進など、国民の関心を惹起するたばこをめぐる環境の変化があった、としてはどうか。	第1回	特に受動喫煙による害を受けやすい妊婦や子どもの利用する施設等での受動喫煙防止対策をより一層推進すべきであり、学校、公園、遊園地、路上における受動喫煙防止対策の推進が重要ではないか。また、海外では、妊娠中の喫煙を法律で禁止している国もあり、胎児を喫煙による害から守ることについて優先的に取り組む必要があるのではないかと。
	第3回	第3回検討会における日本学術会議からのヒアリング。
「たばこの規制に関する世界保健機関枠組条約」(FCTC)に基づき策定された「たばこの煙にさらされることからの保護に関するガイドライン」や各国の状況等の国際的な潮流も踏まえ、受動喫煙防止対策の推進を図る必要がある、としてはどうか。	第4回	第4回検討会における神奈川県職員からのヒアリング。
	第3回	第3回検討会における日本学術会議からのヒアリング。
たばこの健康への影響についてエビデンスに基づく正しい情報を発信し、一人ひとりがたばこの健康影響について理解を深めるとともに、効果的な普及啓発を一層推進することにより、受動喫煙防止対策を推進する気運を高めていくことが重要である、としてはどうか。	第1回	喫煙者に受動喫煙による害について正しい情報提供を行い、喫煙者が受動喫煙による被害を与えているとの認識を持つことが重要。
	第1回	受動喫煙をなくすためには、喫煙者が禁煙するために必要な正しい情報をより身近なものにしていく必要がある。
	第1回	小さな店やタクシー等が公共空間であるとの認識を深めていく必要がある。
	第1回	セクシャルハラスメント(セクハラ)という言葉のように、スモキングハラスメント(スモハラ)という言葉も普及していくべきではないか。
	第2回	スモキングハラスメント(スモハラ)のキャンペーンを行うのはどうか。
	第2回	胎児の脳をたばこが傷つけるという情報が行き渡っていないため、キャンペーンのような形で広めていくべきでないか。
	第2回	喫煙者にとっての対応策の情報はどの程度発信されており、どのような情報が本来喫煙者の健康を踏まえたいい情報・対策なのか。
	第2回	たばこの害についてだけでなく、安く、楽に禁煙する方法があるという情報をより発信するべきではないか。
	第3回	スタート時点からたばこゼロの世代を育てていくことと既に体験してなかなか止められない人の禁煙をサポートすることを同時に進行できる施策をやっていくべきではないか。
	第3回	第一に健康増進法を周知することで更に分煙の取組が進むのではないかと。
受動喫煙防止対策の将来的な方向性として、多数の者が利用する公共的な空間は、受動喫煙による健康影響を防止するため原則として全面禁煙であることが望ましい、としてはどうか。	第1回	受動喫煙防止対策を推進する上では、文化と風潮を作り出すことが重要ではないか。
	第3回	無煙たばこも含めて脱たばこ社会を目指す。
受動喫煙防止対策の将来的な方向性を踏まえつつ、段階的努力として喫煙可能区域を設けることについて、どのように記載するか。	第4回	公共の場所での規制は支持する。
	第3回	一律の禁煙又は分煙を義務づけることは適切ではないのではないかと。
	第4回	施設の形態に応じて、全面禁煙や分煙も認めるべき。
	第4回	施設の形態によっては、分煙もやむを得ない。
	第4回	喫煙場所を確保していくことも重要である。

2 施設における具体的な受動喫煙防止対策について

報告書骨子(案)	検討会	意見
<p>多数の者が利用する施設のうち、全面禁煙とするべき施設を示してはどうか。例えば、医療機関、健康維持や健康増進を目的に利用される施設、官公庁、公共交通機関が考えられるのではないかな。</p>	第1回	公共性の高い学校、病院等については、より一層、受動喫煙防止対策を推進すべきではないか。例えば、禁煙キャンパスという言葉の実効性を強める必要があるのではないかな。
	第1回	公共交通機関で既に対策がとられたところに対しても、より進んだ提案がされるべきではないかな。
	第3回	ガイドラインに沿って、公共の場所における屋内、公共交通機関での全面禁煙を明示して、罰則のある強制力を伴う法を整備する必要がある。
	第4回	受動喫煙防止対策を更に推進していくためには、罰則を含めた条例を制定すべき。
<p>多数の者が利用する施設の規模・構造、利用状況等により、全面禁煙が困難である場合において、喫煙区域を設ける際の留意事項を示してはどうか。例えば、「分煙効果判定基準策定検討会報告書」等を参考に適切な受動喫煙防止措置の方法を採るとしてはどうか。</p>	第1回	中小の飲食店については、受動喫煙防止対策の取組が遅れているとの報告があるが、禁煙席を確保するためのスペースの問題や、常連の顧客が喫煙者の場合には、禁煙を徹底することが難しいなどの問題がある。
<p>喫煙区域を設定した場合においては、喫煙区域に未成年者が立ち入ることを禁止するための措置を講ずる必要があるのではないかな。また、妊婦について、喫煙区域に立ち入ることを制限するための措置を講ずる必要があるのではないかな。例えば、喫煙区域であることを注意喚起するポスター等を掲示する等の措置が考えられるのではないかな。</p>	第1回	特に受動喫煙による害を受けやすい妊婦や子どもの利用する施設等での受動喫煙防止対策をより一層推進すべきであり、学校、公園、遊園地、路上における受動喫煙防止対策の推進が重要ではないかな。また、海外では、妊娠中の喫煙を法律で禁止している国もあり、胎児を喫煙による害から守ることについて優先的に取り組む必要があるのではないかな。
	第3回	未成年者の従業員を受動喫煙から守る取組がなされていないのではないかな。
<p>飲食店や旅館における受動喫煙防止対策についても記載してはどうか。</p>	第1回	宴会場や客室を備える旅館、特に小さな旅館等では、利用者側に公共空間という意識が薄く、受動喫煙防止対策に関する理解が得にくい状況にある。
	第1回	店主も従業員もリスクを承知で合意の上なら、喫煙者専用の居酒屋や小さな飲食店があってもよいという意見もあるかもしれない。
<p>厚生労働省において、多数の者が利用する施設における受動喫煙防止対策の取組について、進捗状況や実態を把握していくべきではないかな、としてはどうか。</p>		

3 その他

(エビデンスに基づく正しい情報の発信)

報告書骨子(案)	検討会	意見
<p>受動喫煙防止対策に必要な調査・研究を進めてはどうか。例えば、住空間の変化に対応した受動喫煙による曝露状況の調査や、受動喫煙によるたばこ煙への曝露をより正確に評価するための手法に関する研究はどうか。</p>	第1回	住空間の変化に対応した受動喫煙による曝露状況を調査する必要があるのではないか。
	第1回	受動喫煙によるたばこ煙への曝露をより正確に評価するための研究をさらに推進する必要があるのではないか。
	第2回	喫煙の連鎖というものがあ程度データ等ででるならば、情報の発信や対応策もより具体的になるのではないか。
	第2回	外国でレストランやバーが全面禁煙になってもビジネス等にはあまり影響がないというデータがあればよいのではないか。
	第2回	受動喫煙の生体への影響についてより明確な根拠が必要ではないか。
	第1回	飲食店では、禁煙にすることによる経営への影響が懸念されており、飲食店等に受動喫煙防止対策の推進を求めるのであれば、経営に与える影響について情報が必要ではないか。
	第3回	売り上げの問題から禁煙に出来ない店舗もある。
<p>受動喫煙防止対策を進めていくために、たばこの健康への悪影響以外の情報も発信してはどうか。例えば、安くかつ楽に禁煙する方法等の禁煙を促す情報はどうか。</p>	第1回	喫煙者に受動喫煙による害について正しい情報提供を行い、喫煙者が受動喫煙による被害を与えているとの認識を持つことが重要。
	第1回	受動喫煙をなくすためには、喫煙者が禁煙するために必要な正しい情報をより身近なものにしていく必要がある。
	第1回	小さな店やタクシー等が公共空間であるとの認識を深めていく必要がある。
	第1回	セクシャルハラスメント(セクハラ)という言葉のように、スモキングハラスメント(スモハラ)という言葉も普及していくべきではないか。
	第2回	スモキングハラスメント(スモハラ)のキャンペーンを行うのはどうか。
	第2回	胎児の脳をたばこが傷つけるという情報が行き渡っていないため、キャンペーンのような形で広めていくべきでないか。
	第2回	喫煙者にとっての対応策の情報はどの程度発信されており、どのような情報が本来喫煙者の健康を踏まえたいい情報・対策なのか。
	第2回	たばこの害についてだけでなく、安く、楽に禁煙する方法があるという情報をより発信するべきではないか。
	第3回	スタート時点からたばこゼロの世代を育てていくことと既に体験してなかなか止められない人の禁煙をサポートすることを同時に進行できる施策をやっていくべきではないか。
第4回	第一に健康増進法を周知することで更に分煙の取組が進むのではないか。	

(普及啓発の促進)		
報告書骨子(案)	検討会	意見
たばこの健康への悪影響や禁煙を促す方法等について、禁煙教育として、地域、職域、学校、家庭において一層推進する、としてはどうか。	第2回	経営者の、たばこを吸う人は自己管理ができない、あるいは将来保険料が高くかかるなどのインセンティブについて、健康教育の一環として啓発することが必要ではないか。
	第2回	教育委員会に禁煙教育に取り組んでもらい、将来学校の先生になる学生が正確なたばこの害を学び、喫煙防止教育をできるような能力を身につけていけるようにするべきではないか。
(今後の課題)		
報告書骨子(案)	検討会	意見
今後の課題として、以下の事項が考えられるのではないかと。 ・職場や公共的空間(例えば、公園、路上等)における受動喫煙防止対策 ・ニコチン代替製剤や内服薬等の禁煙補助薬剤、並びに禁煙サービスをより手軽に活用できる方策 ・たばこに関する健康増進策の一層の推進と、たばこ価格・たばこ税の引上げ ・行政による受動喫煙防止対策の支援方法	第1回	顧客の喫煙による従業員の受動喫煙の観点からの対策も必要ではないか。
	第1回	職場の喫煙率が高い場合、休憩室等で受動喫煙にさらされることがあり、職場という観点で対策が必要ではないか。
	第2回	煙が残留している部屋に従業員を入れてしまったから経営者の責任が問われると言った方向に議論が行くべきではない。
	第1回	健康増進法に基づく公共の施設に限らず、屋外、家庭等における受動喫煙防止対策まで含めて検討すべきではないか。
	第2回	たばこへのアクセスの障壁を高くし、喫煙者が内服薬等の禁煙グッズをもっと手軽に活用できるようにするべきではないか。
	第3回	行政においても、自主努力を支援して欲しい。
	第3回	事業者、利用者双方の理解を得るために、早急な結論や方向付けを避けて、十分な議論を重ねて欲しい。
(おわりに)		
報告書骨子(案)	検討会	意見
受動喫煙防止対策の取組の進捗状況及び実態を踏まえながら、折に触れ、更なる受動喫煙防止対策の進展に向けた議論の機会を設けることが必要である、としてはどうか。		

・・・網掛けは1. 現況認識と基本的考え方より再掲。